地震時対応LPガス保安ガイド

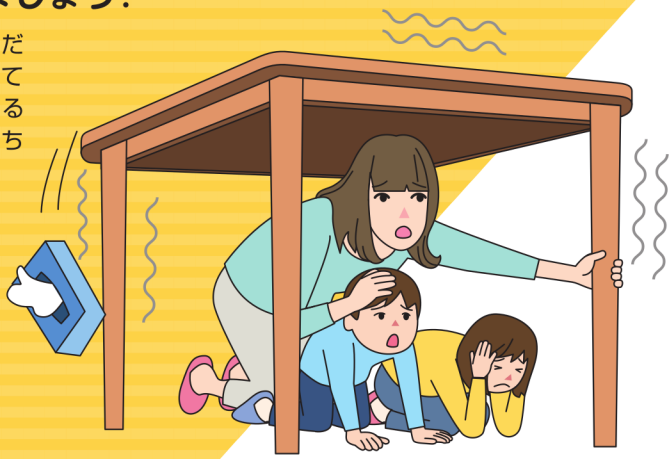
安全・安心にお使いいただくために

地震時の対応

地震が発生！その時の対応は！

自分の身を守りましょう！

●まず、身の安全を確保してください。（棚や棚の上に載せてあるものが落ちてきたりするので、揺れがおさまるのを待ちましょう。）



まず身の安全を！



火の始末をしましょう！

●ガスを使用しているときは、揺れがおさまってから器具栓を閉めてください。

●ガスを使用中に強い地震（震度5相当以上）が起きたときは、ガスメーターが自動的にガスをしゃ断します。（ガスを使用していないときは、しゃ断しません。）



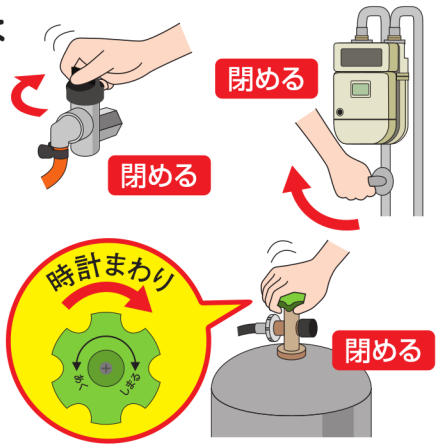
地震発生後の注意事項

ガス漏れや避難するときは

●ガス漏れやガスの臭いがするときは、ガスの使用をやめて、器具栓、ガスの元栓、メーターガス栓および容器バルブをすべて閉めて、LPガス販売店か緊急時連絡先に連絡してください。

●避難するときは、器具栓、ガスの元栓、メーターガス栓および容器バルブをすべて閉めてください。

※家屋等に被害が発生した地域では、ガス漏れや容器の点検を順次行いますので、点検の際にはご協力をお願いいたします。



LPガス安全委員会ホームページでも詳しい情報をご覧いただけます。http://www.lpg.or.jp/ LPガス安全委員会 検索

LPガス緊急時の連絡先	LPガス販売店名
連絡先: 株式会社あみや商事 電　話: 0536-22-2102 緊急時の連絡先は24時間対応しています。	株式会社あみや商事

LPガス安全委員会　経済産業省 Ministry of Economy, Trade and Industry

ガスの使用を再開するときの安全確認

次の場合はガスを使用すると危険です。

ガス漏れやガスの臭いがないか！

ガス漏れやガス臭いときはガスを使用せず、器具栓、ガスの元栓、メーターガス栓および容器バルブをすべて閉めて、LPガス販売店か緊急時連絡先に連絡してください。

ガス器具に損傷がないか！

ガス器具が損傷していたときは、ガスを使用せず器具メーカーに修理を依頼してください。

ガスがしゃ断された場合は、ガスメーターの表示を確認してください。

ガスメーター（マイコンメーター）の機能と表示

●ガスを使用中に強い地震（震度5相当以上）が起きたとき、自動的にガスをしゃ断します。

●地震で配管の折損やゴム管がはずれるなどして、ガスの流れや圧力などに異常があると、自動的にガスをしゃ断し原因が表示されます。



ガスを使用中、震度5相当以上の**地震が発生**した場合。



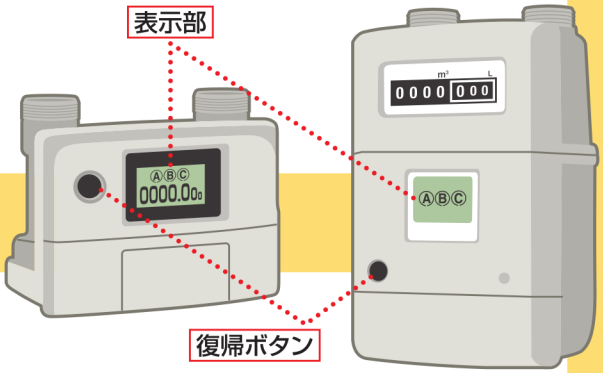
ガス器具の消し忘れなど、長時間ガスを使用され続けた場合。



ゴム管の外れなどにより、極めて多くのガスが流れた場合。

ガスを使用していないときは、ガスをしゃ断しない機能になっています。

※ガス警報器とガスメーターが連動している場合、警報が鳴ったときも地震しゃ断と同じ表示になります。

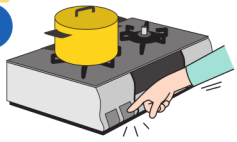


余震や停電に注意して復帰を行ってください。

ガスメーターの復帰方法

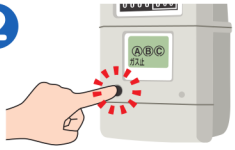
●ガス漏れやガス臭いときは、復帰操作をせずLPガス販売店か緊急時連絡先に連絡してください。
●地震しゃ断表示でない場合は、LPガス販売店の点検を受けてください。

1



●器具栓を**すべて閉めて**ください。
●使っていないガスの元栓が閉まっていることを確認してください。

2



●左側の復帰ボタンを押してください。
●「**ガス止**」の文字が消えます。

3



●液晶の文字とランプが点滅します。
●**1分間**お待ちください。
※ランプが復帰ボタン部にあるものもあります。

4



●液晶の文字とランプが消えます。
●復帰完了です。
●ガスは使えます。

※復帰操作をしても復帰しない場合（再び「ガス止」表示が出る）は、復帰操作を繰り返さずLPガス販売店の点検を受けてください。

停電中のガス器具使用のご注意

●停電中は換気扇などが動かず、CO中毒事故が懸念されます。ガス器具を使用するときは窓を開けるなど換気に十分ご注意ください。特に小型瞬間湯沸器は燃焼量が大きいため、十分な換気を確保してください。
●また、停電中は照明不足等によりガス器具がよく見えないため、操作には十分ご注意ください。

100Vの電源を使用しているガス器具

給湯器、暖房機器など、100Vの電源を使用している機器は、停電中は使用できません。
ガス給湯器は停電により出湯温度、ふろ温度などが初期設定値に戻ってしまいます。停電後、最初にガス給湯器を使用するときは、設定値を確認してください。

ガス給湯器の凍結にご注意

長時間の停電や電気ブレーカーを落とすと給湯器の凍結防止装置（電気ヒーター）が働きません。凍結の恐れがあるときは、給水元栓（水道栓）を閉めて、給湯器の水抜きを行ってください。
水抜きの方法は、給湯器の取扱説明書で確認してください。

LPガス安全委員会 2024.8